

湯築地区

面積：4.19km²
人口：11,737人（高齢化率 28.7%）
世帯数：6,299世帯

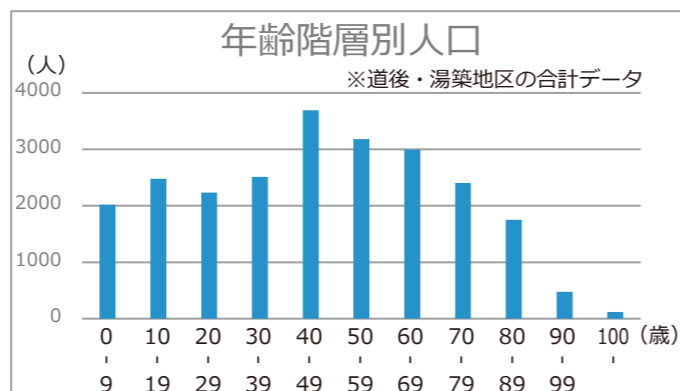


【地区の特色】

湯築は、道後温泉の中心地、道後湯之町・白鷺伝説の鷲谷から西の御幸山の麓まで広がる祝谷（湯湧谷が転訛 旧温泉郡道後村）の農村地域であったが、現在は松山の中心市街地や文京地区に近く、閑静な住宅地として発展変容してきている。近年定住された世帯は高齢者比率が非常に高く独居高齢者世帯も多くなっている。また、農地の宅地転用の中小規模賃貸マンション・貸家の比率が高く、年間の転出入が多い。



やっこおど 奴踊り



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> 道後温泉をはじめ歴史伝統文化史跡が多くある 中心市街地、文教地区に近く、閑静で自然豊かな住宅地 愛媛大学、松山大学が近く、学生や若者が住みやすい町 教育に熱心な校区とされ、移住の希望が多い 病院、介護施設が多い しめ縄作り等の行事へ、高齢の協力者が多い 秋祭りの炊き出しにおいて団結力がある（祝谷公園）
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> 現役世代が少なく高齢者世帯が多い ・坂が多く高齢者が歩くのが大変 伊予鉄バスの便が少なく不便 地盤が弱く土石流危険箇所が多い ・避難場所が少ない 交流ができる場所が少ない 役員のなり手がなく子ども会が減少している ・若者の行事への参加が少ない 大型マンションはカギが個人持ちで共通キーもなく安否確認に不安 AED等の救護設置箇所が少なく偏っている
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者世帯、高齢者独居世帯、老々介護世帯が多い 買い物難民の心配が危惧される 一部公共の乗り物の不便さがある 若い世代は共働きが多く行事の参加がむずかしい 役員のなり手がなく、交代ができない 災害時の支援体制が整っていない 大型マンションの住人と地域住民の交流ができない

湯築地区社会福祉協議会

構成団体	地区民協・道後温泉旅館組合・道後商店街振興組合・中学校・小学校 公民館・自治会連絡協議会・高齢クラブ長寿会
主な取り組み	活動内容
ふれあい料理教室	食生活の改善や近隣住民とのふれあいの場を目的として5月から9月にかけて毎月開催しています。高齢者を中心に老若男女だれでも気軽に参加できます。
三世代交流	秋祭りの奴踊り、獅子舞や年末年始のもちつき、しめ縄作り、七草がゆなどの行事を通じて、世代間の交流が深まるように活動を支援しています。
福祉講座の開催	湯築・道後地区社協が合同で、毎年2回、高齢者の生活や健康問題などの福祉に関する講演会を開催しています。

湯築小学校5年生入浴体験

平成22年度から始まった入浴体験では道後温泉に初めて入浴する子どもや公衆浴場のマナーを教わる子どもも多く、入浴マナーや道後の歴史などを学ぶことにより、道後温泉の魅力を再発見し郷土愛の醸成を図ることを目的としています。



<地区社協が目指すもの>

湯築地区社協は、「子どもが安心して育てられる町」「お年寄りに優しい町」「誰もが地域行事を楽しむに利用できる町」この3つの町づくり基本骨子の推進活動を目標にしています。

<活動方針> ①地区の小学校・中学校への福祉学習サービス支援を行う。②ふれあいサロン・料理教室等、地域住民の交流促進とリーダーの育成を行う。③福祉講座開催などにより福祉活動への参加意欲の啓発啓蒙、協力会員の発掘を行う。④福祉だより等の広報により地域福祉活動の意識向上を図る。⑤地域行事など伝統文化を大切にする人の輪づくり。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	28名 2名	■町内会・自治会・区長会等	44団体
	■まち協の設立	—	■高齢クラブ	2クラブ
			■子ども会	6団体
			■自主防災組織	1組織

道後温泉本館のある湯築地区では、地区社協の構成団体に旅館組合や商店街組合等の観光地特有の団体が参加しており、子どもたちの郷土愛を育むための観光資源をいかした取り組みや活動が実施されています。一方で若い世代の地区活動への参加や、マンション世帯との接点の少なさが課題になっています。この状況はそのままにしておくと希薄化が増すばかりですが、地区社協が中心となって取り組んでいるふれあい料理教室や祭りなどの三世代交流、道後温泉入浴体験等は住民間や世代間の接点をつなげているほか、地域への愛着を育む場ともなっています。これらの活動を引き継いでいけるよう、意識的に地域全体で支えることが期待されています。



地域カルテ ～地区ごとにみる地域特性～

『地域カルテ』とは

日常生活における不安や悩み、生活課題が複雑化する中、私たちが安心して暮らせるまちづくりに取り組むためには、まずは自分たちが生活する地域を知ることが必要です。自分たちの地域がどのような状況にあるのか、いわゆる地域の健康状態の記録(カルテ)を作成することで、その時々自分たちの地域の強みや弱みを把握するとともに、地域の魅力や課題を共有することにより、住民の地域福祉活動への参加意識の醸成と今後の活動の活性化につなげることが可能となります。今後は小地域ごとに様々な視点から、より詳細な地域分析を行い、それらをもとに地域の特性に応じたまちづくりに取り組んでいくものです。

第1	五明地区
	伊台地区
	湯山地区

第6	宮前地区
	三津浜地区
	高浜地区
	興居島地区
	中島地区

第8	浅海地区
	立岩地区
	難波地区
	正岡地区
	北条地区
	河野地区
	粟井地区
	立岩地区

第2	久米地区
	浮穴地区
	小野地区
	石井東地区
	石井西地区
久谷地区	

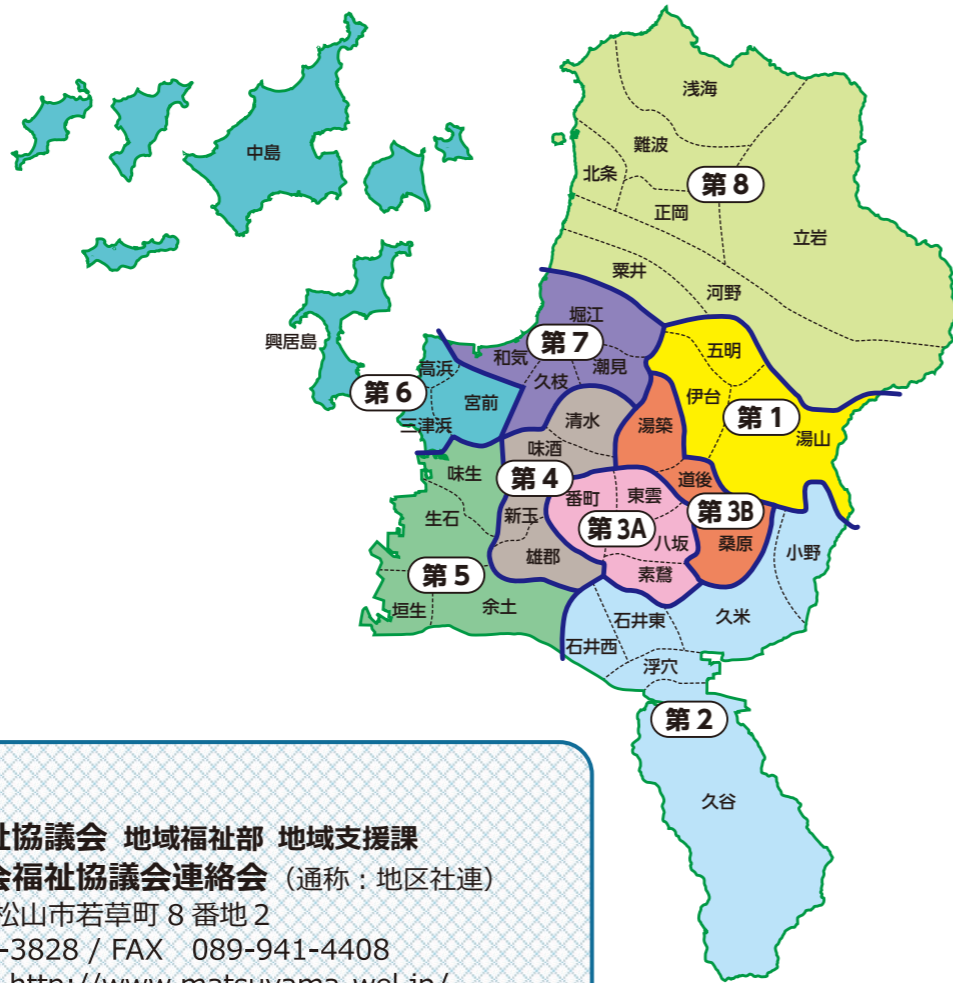
第7	潮見地区
	久枝地区
	和気地区
	堀江地区

第3A	番町地区
	八坂地区
	東雲地区
	素鷲地区

第3B	道後地区
	湯築地区
	桑原地区

第4	雄郡地区
	新玉地区
	清水地区
	味酒地区

第5	余土地地区
	垣生地区
	生石地区
	味生地区



発行日 平成31年3月

発行 松山市社会福祉協議会 地域福祉部 地域支援課
松山市地区社会福祉協議会連絡会 (通称: 地区社連)
〒790-0808 松山市若草町8番地2
TEL 089-941-3828 / FAX 089-941-4408
Web アドレス <http://www.matsuyama-wel.jp/>

作成 地区社会福祉協議会 / 松山市社会福祉協議会

<『地域カルテ』の見方>

掲載情報は随時、追加・更新し、各地区の地域福祉推進に活用していきます!

①地区の概要

- ・面積、人口、世帯数、高齢化率は松山市地区別推計人口、また、年齢階層別人口は松山市地区別年齢別住民基本台帳登録の平成30年4月1日現在のデータを記載しています。
- ・地区の特徴は松山市公民館連絡協議会ホームページを参考にしています。

②地域住民からみた地域の状況

- ・研修会のワークショップや会議の意見として、地区社協関係者や民生委員・児童委員をはじめとする地域住民の方々から出された内容をまとめて記載しています。

③地区社協の概要と取り組み

- ・平成30年度現在の各地区社協の活動状況及び地区社協が目指すものを記載しています。

④地区内関係団体データ

■地区民協	平成30年4月1日現在の定数
■まち協の設立	平成30年11月1日現在の設置状況
■町内会等	平成30年度町内会等状況調査(基準日:平成30年6月1日)
■高齢クラブ	松山市高齢クラブ連合会登録数(平成30年4月1日現在)
■子ども会	平成30年度松山市子ども会連合会加入数
■自主防災組織	自主防災組織 地区別結成状況(平成30年4月1日現在)

⑤地域福祉推進のポイント

- ・聖カタリナ大学 教授 恒吉和徳氏をはじめとする学識経験者の皆様から地域福祉推進に向けたコメントをいただいております。

《ご協力いただいた聖カタリナ大学の先生方》

教授 田中顕悟氏、准教授 村岡則子氏、准教授 釜野鉄平氏、助教 近藤益代氏